



研究目的での胚作成に関する議論(英国) (Warnock委員会、1984)

前提

1. 研究目的での胚作成禁止により医学の発展が妨げられる
2. 偶発的に利用可能となった胚だけでは不可能な研究が存在

慎重意見

1. 余剰胚の利用と、研究目的で作成された胚は異なる
2. ヒトへの発育の可能性のない場合には、受精されるべきではない
3. 有効性のない研究にも多くの胚が作成されるおそれ

推進意見

1. 「移植しない」と決めた胚に発生の可能性はない
2. 認めないと研究範囲が抑制され、ある分野では事実上研究不能(たとえば受精過程の研究)
3. 良好な胚は移植されるので、廃棄余剰胚は研究材料として不適
4. 卵子凍結・自然周期などの技術が進むと廃棄余剰胚は減少



HFEA認可プロジェクト数・施設数

	~1999年 8月31日	~2000年 8月31日	~2001年 8月31日	~2002年 8月31日	~2003年 8月31日	~2004年 8月31日
申請数	124	131	135	141	149	156
認可数 (但し12が更新拒否)	102	111	115	136	142 ^{*1}	154 ^{*2}
終了プロジェクト数	63	70	74	77		

* 1 12th Annual Reportは、これまでの認可数を116としているが、11th Annual Reportまでの累計の取り方と異なり、当時の認可数が含んでいないものと推測する。

* 2 13th Annual Reportは、これまでの認可数を124としているが、11th Annual Reportまでの累計の取り方と異なり、当時の認可数が含んでいないものと推測する。

